

対象期間：2011年4月1日～2012年3月31日

# 環境活動レポート

微粒子技術で“新しい可能性の共創”

**Ashizawa**

**アシザワ・ファインテック株式会社**

〒275-8572 千葉県習志野市茜浜 1-4-2

TEL.047-453-8111(代) FAX.047-453-8378

承認



確認



作成



## 環境活動レポート

### 【環境方針】

コーポレートスローガン  
微粒子技術で “新しい可能性の共創”

### 使命感

世界一の粉砕・分散技術で、お客様のものづくりビジョンを実現することにより、資源の有効活用と人類の発展に貢献し、社員が誇りと満足を得る企業となる。

### 行動指針

アシザワ・ファインテック株式会社は、微粉砕・分散技術のプロ集団として、環境との共生・調和への取組みを最重要課題として以下の環境保全活動を推進します。

1. 微粉砕機・分散機の製造販売の全事業活動において、JISQ9001：2008（ISO9001）に合致する品質方針に基づき業務を遂行し、省資源・省エネルギー・資源環境・エコライフなどに配慮した製品を提供します。
2. 環境保全に関する法規則を遵守することはもとより、可能な範囲で自主基準を制定し、一層の環境保全に取り組めます。
3. 環境汚染を未然に防止すると共に、保全活動を推進するため、環境経営システムを構築し、全ての組織で運営し、継続的に改善向上を図ります。
4. 事業活動の中で、特に以下の項目について重点的なテーマとして保全活動を推進し、環境目標を設定し、必要あれば目標を見直すなどの効果的な取組みを行います。
  - (1) 「環境への負荷チェック」の結果、事業活動の中で特に、二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、総排水量について環境負荷低減の改善目標値を設けて目標管理を行う。
  - (2) 廃プラスチック類の分別とリサイクルに関する調査を推進し、再資源化を図り廃棄物量の削減に努力する。
  - (3) コピー用紙の両面使用の強化と共に、IT業務化によるペーパーレス活動に努める。
  - (4) 事業活動車両の保守点検作業の励行と安全運行を遵守し、排気ガスによる環境汚染を防止する対策を構築する。
  - (5) 緑化協定を遵守し、保守整備を計画的に実施し、地球温暖化抑制運動の推進に努める。
5. 周辺地域の環境を維持するために、環境行政機関・団体などの環境保全活動に協力すると共に周辺の整備・清掃等の地域社会の行事に積極的に参加し社会貢献に努めます。
6. 環境教育と社内広報活動を実施し、全社員に環境方針を周知徹底すると共に、取引先にも環境方針を周知し社内外において環境保全活動の知識・認識の向上に努めます。

— この環境方針は、社内外に公表します —

2004年1月5日 制定

2009年4月1日 改定

アシザワ・ファインテック株式会社

代表取締役社長

芦澤直太郎



# アシザワ・ファインテック株式会社 環境活動レポート

2011年8月31日

## 1. 事業活動の概要

### 1) 事業社名及び代表者名

アシザワ・ファインテック株式会社

代表取締役社長 芦澤 直太郎

### 2) 所在地

・本社工場 〒275-8572 千葉県習志野市茜浜 1-4-2

・大阪支店 〒561-0802 大阪府豊中市曽根東町 6-2-1

### 3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

管理責任者 専務執行役員 岡野 隆史

事務局 人事総務課リーダー 齋藤 泰宏

E A 2 1 委員会委員長 製造課主任 吉田 健作

連絡先 人事総務課リーダー 齋藤 泰宏

TEL : 047-453-8115 FAX : 047-453-8378

### 4) 事業内容

分散機・微粉碎機・混合機・混練機・押出機的设计・開発・製造

### 5) 事業の規模

活動規模	単位	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
売上高	百万円	2,198.9	2,936.5	2,343.9	1,666.8	1,948.4
従業員	人	94	98	112	108	104
試作・受託 件数	件	512	591	640	643	557

### 6) その他

- ・ 9月下旬に全社の電力使用量の「見える化」の一環として、電力モニタを設置。リアルタイムで電力使用量を把握することができ、電気使用量の削減に一役買っている。
- ・ 効率的な業務の遂行と、ペーパーレス化の推進のため、11月より社内ネットワークとして新グループウェアを稼働。
- ・ 国際粉体工業展東京 2010にて、「閉回路粉碎 SDA-L システム」を発表。乾式粉碎をシステム化したことにより、更なる微細化とエネルギー効率の向上を実現。
- ・ 3月11日の東日本大震災における当社の被害としては、直接の被害は少なかったものの一部ライフライン、物流の遮断等影響を受けたものもあった。

## 2. 環境目標とその実績

### 1) 目標達成状況

#### 〔目標〕

環境負荷への現状を取組み状況のチェックにより検討した結果、当社の環境保全活動実施にあたり、効果が期待出来るものとして、昨年度と同様に総エネルギー投入量等から排出される二酸化炭素排出量・廃棄物排出量・総排水量の削減に継続的改善を踏まえて取組む。但し、総排水量に関しては、下水道局から報告される数値が曖昧であるため、正確に数値として把握できる水資源投入量での削減を目標とした。その他としては、環境法規・条例を遵守する事はもとより、一層の環境保全活動に取組む事と、新たな環境保全活動の検討を実施する。

環境負荷と環境への取組結果を踏まえ定めた環境負荷低減の目標は、業務拡張により負荷が増大した2008年の数値を新たに基準値とし、毎年1%の削減をめざし、3年間（2011年度まで）で各3%の削減を目標とした。

2010年度(4月1日～翌年3月31日)

項 目		2007年度 実績	2008年度 実績(基準)	2009年度 実績	2010年度 実績	2011年度 目標
二酸化炭素 排出量	二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> )	233,747.1	260,642.5	240,440.8	242,947	2008年度 実施値より 3%削減
廃棄物 排出量	総廃棄物(t)	49.8	48.9	46.0	43.4	2008年度 実施値より 3%削減
水資源投入 量	上水道量(m <sup>3</sup> )	2,528.0	2,130.0	1,969.0	2,063.0	2008年度 実施値より 3%削減
総排水量	下水道量(m <sup>3</sup> )	2,498.0	2,172.0	1,980.0	1,842.0	

注) 目標数値は水資源投入量からの削減とした。

※ 2008年度は2007年1月より稼働している別館に伴い、電気使用範囲の拡大や受託加工の稼働に伴い購入電力量・廃棄物排出量が大幅に増加する事が予想された。その為、受託加工と試作を合わせた原単位数値においても比較を実施していく。又、2007年同様業績の変化に伴う売上高からの比較や従業員数での比較も実施し評価する事とする。

[実績]

当社における二酸化炭素排出量・廃棄物排出量・水資源投入量・総排水量の実績は以下の通りである。

(2011年3月末)

項目	2007年度実績	2008年度実績(基準)	2009年度実績	2010年度目標	2010年度実績	基準比	
二酸化炭素排出量	購入電力(MJ)	2,757,039.8	3,193,531.1	3,326,825.9			
	化石燃料(MJ)	1,362,840.1	1,332,739.3	1,077,190.1			
	二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	233,747.1	260,642.5	240,440.8	2%削減	242,947.2	6.8%削減
廃棄物排出量	総廃棄物(t) (単純焼却 11.6) (再利用 34.4)	49.9	48.9 (単純焼却 18.1) (再利用 22.7)	46.0 (単純焼却 15.6) (再利用 24.1)	2%削減	43.4 (単純焼却 22.5) (再利用 20.9)	11.2%削減
水資源投入量	上水道量(m <sup>3</sup> )	2,528.0	2,130.0	1,969.0	2%削減	2,063.0	3.1%削減
総排水量	下水道量(m <sup>3</sup> )	2,498.0	2,343.9	1,980.0		1,842.0	21.4%削減

原単位数値での比較		売上高	増減比	従業員数	増減比	試作・受託件数	増減比
購入電力(MJ)	2008年度	1,362.5	23%	28,513.7	10%	4,989.9	17%
	2010年度	1,670.4		31,293.4		5,842.9	
化石燃料(MJ)	2008年度	568.6	▲1%	11,899.5	▲11%	2,082.4	▲5%
	2010年度	563.3		10,553.0		1,970.4	
二酸化炭素排出量(kg-CO <sub>2</sub> )	2008年度	111.2	12%	2,327.2	0%	407.3	7%
	2010年度	124.7		2,336.0		436.2	
総廃棄物(t) (単純焼却物)	2008年度	0.021 (0.008)	5% (50%)	0.437 (0.162)	▲5% (33%)	0.076 (0.028)	1% (43%)
	2010年度	0.022 (0.012)		0.417 (0.216)		0.077 (0.040)	
水資源投入量(m <sup>3</sup> )	2008年度	0.9	22%	19.0	4%	3.3	12%
	2010年度	1.1		19.8		3.7	
総排水量(m <sup>3</sup> )	2008年度	1.0	▲5%	20.9	▲15%	3.7	▲11%
	2010年度	0.95		17.7		3.3	

(1) 二酸化炭素排出量

- ・ 目標は2008年度からの2%の削減であり、結果としては6.8%の削減となった。
- ・ 空調設定温度管理の徹底と屋外機へのよしず設置で化石燃料の削減が大きく関与し、結果として二酸化炭素排出量削減につながったと考える。ただ、購入電力としては増加傾向にあり、引き続きの購入電力量を見守ることとする。

(2) 廃棄物排出量

- ・ 廃棄物総排出量は11.2%の削減となり二酸化炭素総排出量と同様の結果となった。
- ・ リユース製品の継続使用と廃棄物の継続監視と分別の周知を行うことで削減目標達成したと思われる。ただし単純焼却15.6t⇒22.5t(約44%増)と増加しているため、現状分別

の監視を行っているものの、その内訳など主要因を掴む必要がある。

- ・従って今後も、一般ゴミに含まれている資源ごみの徹底した分別を強化していく。

(3) 水資源投入量・総排水量

- ・こちらも目標値から 15.2%の削減ができた。水量使用の一番多い洗濯について、節水タイプの洗濯機を導入、使用などの効果が現れたと推測する。
- ・ただ 2009 年度より若干水資源投入量が増えているので、引き続き水道メータの継続監視を行うこととする。

(4) その他

- ・2010 年度は 2009 年度と比較すると、業績面で回復していたが、その業務量の増加に伴って二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、水資源投入量・総排水量の数値が 2008 年度基準より全て削減できた。ただ、従業員ならびに受注ベースでの原単位比較では、増加している項目も見受けられ、今後も引き続き受注増の傾向より、いかに目標削減に取り組むことが出来るか、課題となるであろう。

## 2) 今後の取組み

- ・電気使用量の監視として昨年度導入した電力モニタの有効活用の推進を行っていく。
- ・分別状況の監視としては、ゴミ分別箇所毎の分別状況を確認し、より精度の高い分別を目指すべく、分別状況によっては、課毎での指導も取り組んでいく。
- ・各所に取り付け水道メーターにより各所使用量が把握できた。その結果に基づく節水案の抽出ならびに導入に向け活動を行っていく。
- ・雨水利用については、雨水有効活用方法の推進を行っていく。
- ・教育については、エコアクション21のガイドラインから当社の環境経営マニュアルの理解と浸透のためEA21委員向けの環境教育を行っていく。
- ・今後も総排出量での目標設定とするが、同時に原単位数値での把握にも努めていく事とする。2008年度を基準に3年間で二酸化炭素排出量・廃棄物総排出量・水資源投入量各3%の削減を目指すこととする。

項 目		2009 年度	2010 年度	2011 年度
二酸化炭素 排出量	二酸化炭素排出量 (kg-CO2)	2008 年度より 1%削減	2008 年度より 2%削減	2008 年度より 3%削減
廃棄物 総排出量	総廃棄物(t)	2008 年度より 1%削減	2008 年度より 2%削減	2008 年度より 3%削減
水資源投入量	上水道量(m <sup>3</sup> )	2008 年度より 1%削減	2008 年度より 2%削減	2008 年度より 3%削減

※ 削減目標数値は、2008年度を基準値としての目標である。

- ◇ 又、昨年度と同様に環境法規・条例による規制は遵守し、一層の環境保全活動を推進する。
- ◇ 更に、
  - ・新グループウェア稼働による紙の使用量の削減に努めると共に、活動中である再利用や両面コピーの強化並びにミスプリントの削減により、使用量、廃棄量の削減に取り組む。
  - ・廃棄ゴミの再利用可能物資の分別強化として更なる個別勉強会を実施する他、梱包の簡素化により、廃棄物を削減すると同時に 循環資源としての再利用を推進する。

## 3) 環境目標担当部門及び責任者

目標	責任部門	責任者
・二酸化炭素排出量	EA21 委員会	人事総務課リーダー
・廃棄物排出量	〃	〃
・水資源投入量、総排水量	〃	〃
・環境法規・条例の遵守	〃	〃
・管理部門によるリサイクル活動	人事総務課	〃

### 3. 主要な環境活動計画の内容と評価

当社では、環境負荷の低減のまず第一歩として、購入動力や廃棄物、総排水量削減が重要であり、社内全体の目標として重点を置く必要がある。

2010年度の実績と評価を下記に記す。

取組内容	評価
①室内空調設備の温度管理 夏(28℃)／冬(20℃)±1℃ よしずの取付け実施	上期は 28℃、下期は 20℃に設定の継続実施。 この案件はすでに定着し、現状維持。 夏季によしずを取付け屋外機の効率化を実施。
②天井扇取付け完了、効果確認	ハイブリットファン(電力不要)の設置完了後、ガス(エアコン)使用量を 確認し、良好と判断。
③待機電力の削減	待機電力の保持方法の検討、離席時の PC モニター電源 OFF 実施。 引き続きエコ意識を上げる取組みとして活動中。
④省エネ商品調査及び導入	LED 照明他の導入を検討したが、普及率の低さとコスト面で、計画見 送り。
⑤緑化協定の遵守	100%計画通り実施・完了。 次年度以降も KS 委員会と連動し、実施予定。
⑥リユース製品の使用状況の確認	前期よりウエス・軍手のリユース製品の置き換え完了。 その他リユース出来そうなものについて検討予定。
⑦分別状況の監視	資源ゴミの分別状況を継続監視。 分別の周知徹底のため、次年度も継続実施予定。
⑧生活・工業排水量の監視	水道メーター取り付け完了後の継続監視。 次年度も継続実施予定。
⑨雨水利用量の監視	雨水タンク 2 基の使用量の継続監視。 次年度は散水・洗車以外の有効活用の検討。
⑩節水推進	社内の節水対策は完了。 新しい取組があれば今後検討。
⑪雨水利用の推進	雨水利用案を検討したが、具体的取組みまでには至らず。 上記雨水利用量の監視と合わせて継続実施予定。
⑫全社フィードバック	7 月の全社研修会は未実施。 12 月の納会時にエコキャップの回収報告実施。
⑬谷津干潟クリーン作戦参加	今期は天候不良で中止が多かったが、開催時は全て参加。 ただ次年度より管轄が国になるため、別の地域貢献実施案を検討。
⑭千葉県内最終処分場見学	見学未実施。現行の中間処理業者との分別状況確認など、実施内 容再検討。
⑮新入社員向け環境教育	計画の 50%程度の実施。 次年度も継続実施予定。
⑯環境教育プログラム作成	ほとんど未実施。従って新メンバーへの教育が不足した。 次年度は PDCA サイクルに則り、確実に実施することが肝要。
⑰環境経営マニュアル改訂	毎年のレビュー後、改定済み。 次年度も継続実施予定。
⑱緊急時への対応教育	化学物質流出の対応訓練実施済。 次年度も継続実施予定。

### 4. 環境関連法規への違反、訴訟の有無

環境法規、条例の遵守については、関係機関からの特に違反についての指摘等は認証取得の  
2004 年以後受けていない。又、自己宣言として、習志野市に移転以来過去 21 年間での環  
境関連法規の違反・指摘はない。また、自社宣言として今後とも違反はしない。

## 5. 当社の環境に関する社会貢献

1) 当社の事業内容は概要にて説明の通り、分散機・微粉碎機を中心とした、設計・開発・製造・販売であるが、この事業は日本のナノテクノロジーに欠かせないものである。

当社の機械が多くのお客様の製造設備として、稼働(活躍)することによる、環境への社会貢献について述べる。

① 原材料を分散・微粉碎することにより、原材料の機能性が向上し、多くの効果が得られる。

原材料の機能性の向上＝生産性が上がり省エネ

＝少量にて効果が上がり省資源

＝製品の小型化が出来省資源

＝小型化の結果として廃棄処理する場合の廃棄物の削減

② 代替エネルギー分野への展開

太陽光発電システム・燃料電池システムの各分野において、素材製造過程で当社の分散・微粉碎技術が活かしている。

原材料の機能性の向上＝エネルギー変換高効率

＝単位あたり蓄電能力の向上

③ 事例：携帯電話器への当社の分散・微粉碎技術のかかわり

開発時	→	現在
極大型	→	極小型
重い	→	軽い
画面無し	→	画面有り
機能少	→	機能多

等々

④ MAX ナノ・ゲッターの開発・販売

2006 年、ナノテクノロジー時代を先駆け、超微細化への追求として、ナノ粒子向けマイルド分散機：ナノ・ゲッターを開発しましたが、高まるナノ粒子の大量生産のご要望にお応えしたのが、MAX ナノ・ゲッターです。当機種は 2010 年 2 月の展示会で新製品として発表し、ナノ粒子産業に貢献している。

2) お客様の生産工程での動力の削減

原材料を分散・微粉碎するには大きな動力を必要とする。同量の製品を生産する場合、如何に少ない動力でまかなうことが出来るかが、各生産現場では省エネの大きな課題である。そこで当社では機械の性能評価に投入動力を採用し開発を続けた結果、多くのお客様より使用電力量の削減に貢献したとの評価をいただいている。

3) 当社では 2009 年度より LCA (Life Cycle Assessment) の取り組みをはじめており、昨年度の実績としては、主力機種の LMZ シリーズに続いて、ナノ・ゲッターシリーズに展開し、完了した。

#### 4) 自治体の環境活動への一体化

- ・当社の属する自治体では、環境活動として工業団地周辺の清掃活動および干潟の保全活動を毎月実施している。工業団地周辺への清掃活動には、社員の約70%以上が積極的に参加し美化活動に協力している。又、干潟の保全活動においては、自治体との連携を密にして、清掃活動や不要な藻の除去等の活動に参加し、干潟の自然環境維持に貢献している。
- ・外部からの苦情受付等も今年度はなかった。

#### 5) 障害者施設への寄付

- ・当社が実施している分別活動のうち、古紙回収分はリサイクル業者にて換金して頂き、その代金は、障害者施設へ寄付している。直近3カ年の寄付金額は以下の通りである。

年度	新聞紙	雑誌	段ボール
2008年度	670kg	5680kg	3080kg
2009年度	560kg	4830kg	2450kg
2010年度	560kg	3670kg	2540kg

#### 6) 世界の子供にワクチンの提供

- ・環境保全活動の一貫としてエコキャップ活動にも参加し、従業員からも多大な協力を得ることができ、約280kg=約265人分のワクチンを届けることが出来た。